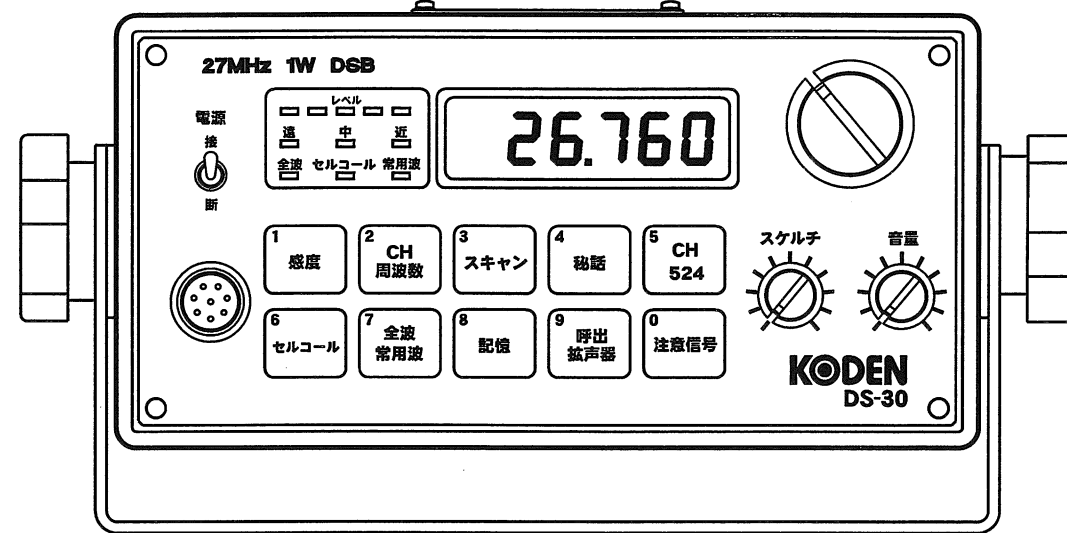




操作スイッチ

1 感度

受信感度の切替「遠」「中」「近」の3つから選びます。近距離通信のとき「中」「近」を選びます。

2 CH 周波数

周波数チャンネル表示周波数表示を切替えます。

3 スキャン

スキャン受信を開始します。

4 秘話

秘話通信を開始します。(オプション)

5 CH 524

遭難・緊急・安全通信用周波数の524チャンネルに設定されます。再度押すまで周波数の変更はできません。

6 セルコール

セルコール呼出しモードになります。

7 全波 常用波

全波と常用波を選択します。

8 記憶

常用波・セルコール呼出番号の記憶に使用します。

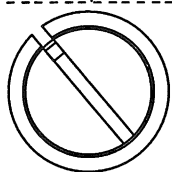
9 呼出 拡声器

拡声器機能を使用します。

0 注意信号

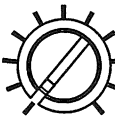
緊急時に"CH524"を押したあと約10秒間押し続けてください。海岸局に注意信号を送信することができます。

選局ツマミ



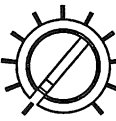
右上にある大きめのツマミです。周波数の選択や各種設定に使用します。

スケルチ



右にまわすと雑音は減りますが、まわしすぎると通常の受信音も聞こえなくなります。

音量



スピーカの音量を調節します。

基本操作

受信



電源スイッチを入れます。



全波と常用波を選択します。
※注1、注2



周波数チャンネル表示か周波数表示かを選択します。選局ツマミでチャンネルを選びます。

スケルチ



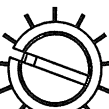
左一杯にしておきます。

音量



適当な音量になるように位置を調整しておきます。

スケルチ



右にまわして雑音が消える位置より少し右で止めます。

送信

マイクのプレストークスイッチを押すと送信状態になります。

※注1 "全波" にすると、本機に登録されている全55波の周波数が選択可能になります。

"常用波" にすると、任意で記憶させた最大20波の周波数のみ選択可能になります。

※注2 常用波を記憶していないと、この操作は無効となりスピーカから"ブツ"という音がでます。

表示部

液晶画面の表示
(常用波/周波数チャンネル表示)

00 333

常用波のメモリ番号("00"~"19")

周波数チャンネル番号("333"~"640")

常用波選択時に選局ツマミを回すと常用波のメモリ番号順に表示されます。常用波選択中は左側の常用波LEDが点灯します。

2 CH 周波数

周波数表示と周波数チャンネル番号"333"に相当する周波数(MHz)が表示されます。周波数表示時に常用波のメモリ番号表示を切替えます。は表示されません。

液晶画面の表示
(全波/周波数チャンネル表示)

333

7 全波 常用波

全波と常用波を切替えます。

液晶画面の表示
(全波/周波数表示)

26.760

選局ツマミを操作すると全波(55波)が周波数順に表示されます。

常用波の操作

(例) 常用波のメモリ番号"00"にチャンネル"333"(26.760MHz)を記憶させます。

液晶画面の表示

333

選局ツマミでチャンネル"333"を選びます。

記憶

液晶画面の表示

00: 333

メモリ番号が点滅します。選局ツマミで"00"を選びます。

書き込み

8 記憶

メモリ番号"00"にチャンネル"333"が記憶されます。

消去

9 呼出 拡声器

すでに記憶されている周波数を削除します。

中止

6 セルコール

操作を中止します。

スキャン受信スキャン設定

基本操作

7 全波 常用波

全波と常用波からスキャンしたい方を選びます。

スケルチ



ノイズが消える位置より少し右側で止めます。

3 スキャン

を押すと、スキャンを開始します。入感すると停止します。(ストップスキャン)

スキャン中に再度押すとスキャンが解除されます。マイクのプレストークスイッチを押してもスキャンが中止されます。

ストップスキャン・自動スタートスキャン間隔の設定

自動スタートスキャン：入感して一定時間停止したあと、次のチャンネルから再スキャンします。

3 スキャン

"スキャン"を押しながら電源スイッチを入れます

液晶画面の表示

S 0.5

スキャン間隔
自動スタート/ストップ表示

スキャンの種類が選択できます。

0 注意信号

S ストップスキャン

A 自動スタートスキャン

スキャン間隔の設定

→ 引続き 1 感度

2 CH 周波数

3 スキャン

4 秘話

スキャン間隔を設定します。

電源 接

断

電源 接

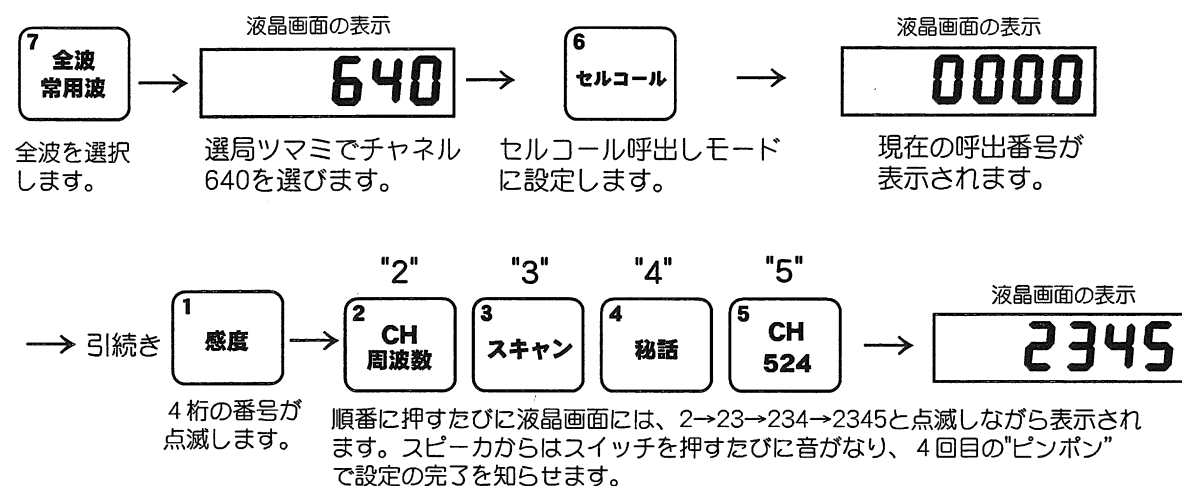
断

電源を一度切ってから再度入れます。

設定した内容は、電源を切っても消えません。

基本操作

(例) チャネル"640"(27.988MHz)で呼出番号"2345"の僚船を呼び出す

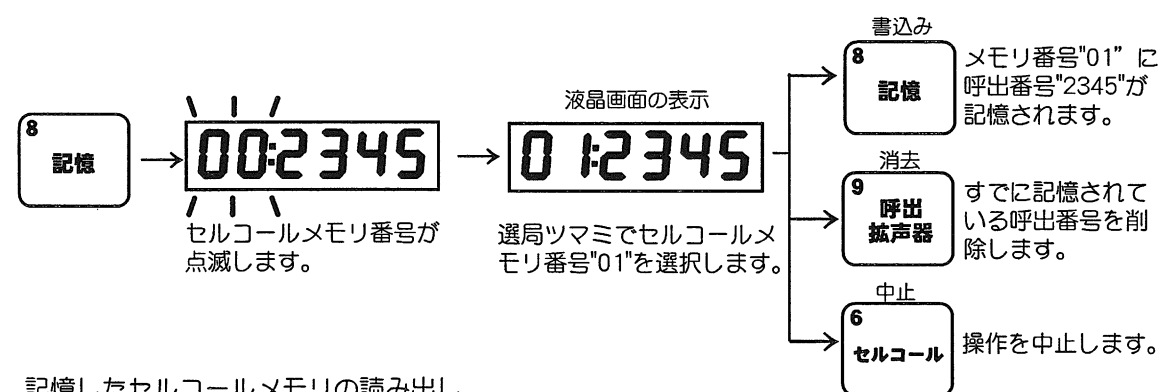


セルコールメモリを使用するとき

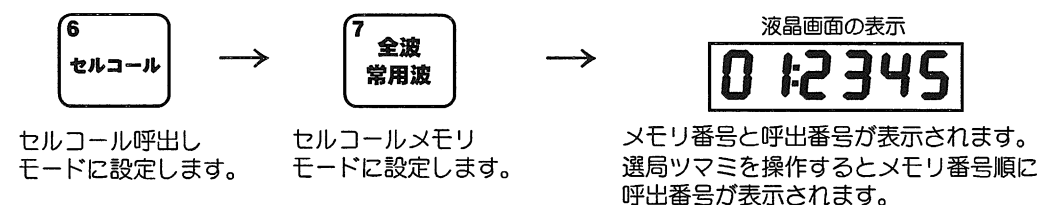
セルコールメモリ番号"00"~"19"に、20種類の呼出番号を記憶できます。

1 記憶

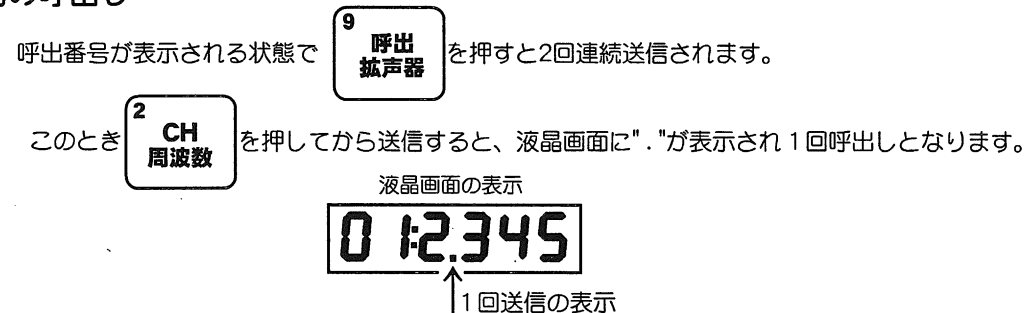
(例) 呼出番号"2345"をセルコールメモリ番号"01"に記憶します。
呼出番号を設定するまでは基本操作と同じです。(ピンポンと音が出るまでの操作)



2 記憶したセルコールメモリの読み出し



他局の呼出し



通常状態への復帰



※セルコール受信にはオプションのセルコール受信ユニットが必要です。

優先チャネルの選び方 ※注3

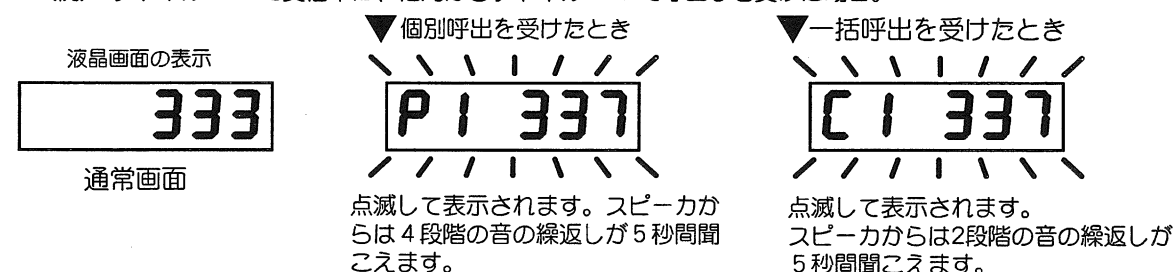
(例) F1チャネル "337"(26.776MHz)を内蔵
F2チャネル "638"(27.980MHz)を内蔵



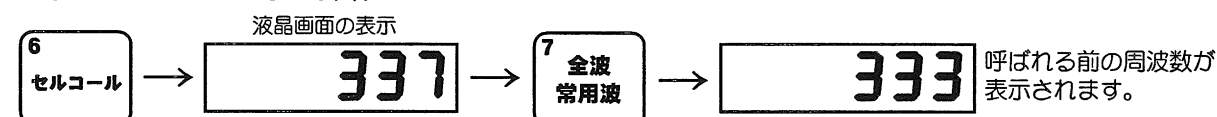
※注3 内蔵したどのチャネルで呼ばれても応答しますが、混信の多いときなど呼ばれたチャネルを特定できない場合があります。(優先チャネルは、確実に特定できるチャネルです。)

呼び出されたときの表示

(例) チャネル"333"で受信中に、他局からチャネル"337"で呼出しを受けた場合。



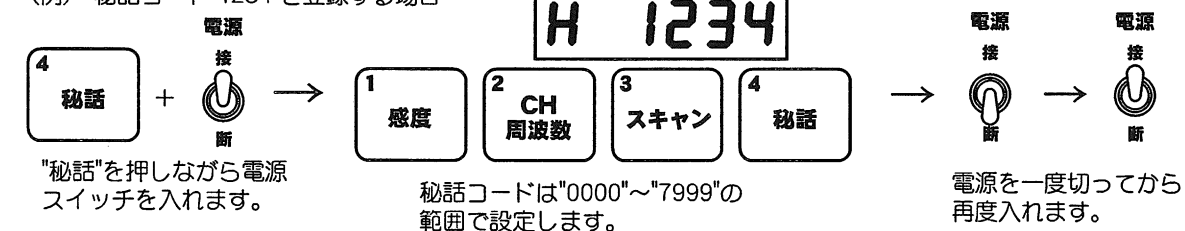
呼び出されたときの操作



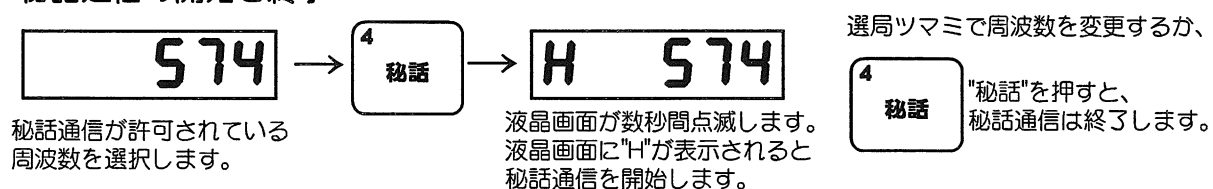
※秘話通信にはオプションの多コード秘話ユニットTV-H2が必要です。

秘話コードの設定

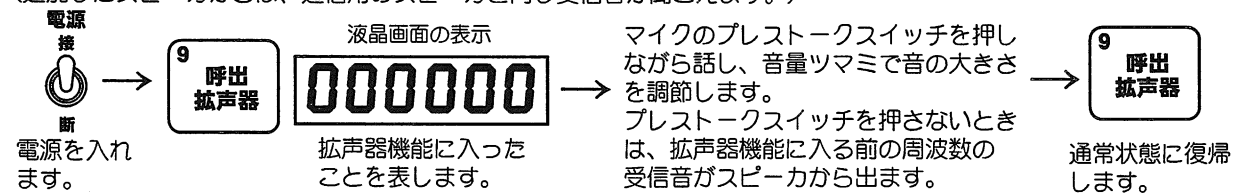
(例) 秘話コード"1234"を登録する場合



秘話通信の開始と終了



拡声器機能が標準装備されていますので、甲板などへの連絡や、隣で操業中の船との連絡に使用できます。拡声器機能を利用するためには、オプションの拡声器用トランペットスピーカをご用意ください。(追加したスピーカからは、通信用のスピーカと同じ受信音が聞こえます。)



チャネル524(27.524MHz)を選んだときは、常用波の記憶・スキャン受信・セルコール呼出・拡声器及び秘話の機能は使用できません。秘話通信の詳細は秘話ユニット"TV-H2"の説明書をご覧ください。